

社会で役立つ実践力 **POWER UP**

ビジネスをサイエンスする

赤穂高校商業科

経済社会で役立つスキルを身につける

地域社会の問題を考え貢献する

困難な課題を突破する力を育てる

通信 vol. 052

総合実践「ビジネスプラン発表」・課題研究「やっちゃえ赤穂！プロジェクト」のまとめ

商業科 3 年プレゼンテーション発表会

1月24日 (火) 創立百周年記念館にて実施しました！



←きれいな記念館での発表



↑新商品の実物も登場！



←かつ丼券の贈呈

信濃毎日新聞1/25掲載

ビジネスモデル 商業科生が立案

赤穂高で発表会

赤穂高校（駒ヶ根市）で24日、商業科3年生が学習の総まとめとして立案したビジネスモデルと、同校創立100周年に合わせて取り組んだ課題研究「やっちゃえ赤穂！プロジェクト」の発表会があった。グループごとに身近な資源を生かし、社会情勢も踏まえて創意工夫した事業構想や、地域貢献へ開発した新商品などを紹介した。

グループの一つは、非常用持ち出し袋に関わるサービスを考案した。食品や薬の賞味・使用期限が切れないよう家庭などで定期的に入れ替えの必要があるが、「面倒で忘れてしまう」と指摘。そこで非常食の入れ替えや期限切れの品の回収を請け負い、自治体とも提携して備蓄倉庫の補充などを

駒ヶ根

地域と連携課題研究も



生徒が考案したビジネスモデルなどを披露した発表会

担っていくとした。

同プロジェクトは「クーポン」「商品開発」「踊り」「お手伝い」のテーマごとに、生徒が地域と関わりながら取り組んだ。駒ヶ根市内の店舗で使えるクーポンを開発したグループは、協賛してもらうために店に出向いたことなどを挙げ、「地域との交流を深められたのが何より大きかった」と振り返った。

商業科の学習の総まとめとして全員が受講し、立案したビジネスモデルの発表もあった。代表の6グループが米の消費量を増やそうと考案した米粉ヨーザ、野菜の切れ端や皮を利用した6次産業の商品開発などを提案。顧客のターゲットやPR方法、実現までの課題も分析して具体化した。3年間の学習の成果を披露した。（唐澤翔）

長野日報1/26掲載

地域活性化や
商品開発発表

赤穂高商業科3年生

赤穂高校（駒ヶ根市）商業科の3年生が24日、今年度受講した授業での成果を発表する「商業科プレゼンテーション」を同校で行った。同校の3年生73人が出席。グループごとに取り組んだ地域活性化や商品開発の活動を振り返り、立案した起業計画のビジネスモデルを発表した。

同校の創立100周年に合わせて、13人の生徒が地域貢献



しようと受講した課題研究「やっちゃえ！赤穂プロジェクト」に取り組んだ。

ソリスかつ丼の開発はテレビ番組の放送を通じて隣県でも紹介され、クーポン券は地域住民の約180人が利用したことを紹介。約6万円の義援金を贈ったと報告した。メンバーは「普段ではできない貴重な経験が積めた」と協力した地域の人に感謝を示した上で、「これからも責任を持つて自発的に活動する」と語った。